子どもたちのミーティング Q&A

# ミーティングの 10のステップ

子どもたちとつくるミーティング（サークルタイム）を、10のステップに分けて詳しく見ていきます。
園で取り組む際には、まずは1つずつ、ステップを踏みながら進めていきましょう。
『保育ナビ』の毎月の連載では、現場の先生方からの疑問に、ステップごとに青山先生が答えています。
本資料と併せて、ご活用ください。

## ステップ概要

- ステップ 0　本音を出せる環境があるか
- ステップ 1　集まる → ステップ 2　耳を向ける → ステップ 3　声を出す →
- ステップ 4　傾聴する → ステップ 5　話す → ステップ 6　会話する →
- ステップ 7　考える → ステップ 8　意見を出す → ステップ 9　考え合う →
- ステップ 10　そしてまた暮らしへ

## ステップ 0　本音を出せる環境があるか

### ● 子どもは、思いを「からだまるごと」表している

子どもは自分の思いを「からだまるごと」表しています。「あれもだめ、これもだめ」と注意ばかりしていると、おとなは行動を止めているだけに思えても、子どもにとっては「からだまるごと」表している思いを止められて、評価されていることになります。教育・保育の場でおとなの声だけが大きい時は大体次の4パターン。指示、命令、禁止、評価です。

子どもがのびのびと自分を発揮できる環境や、それをたっぷりと受け止める間柄がおとなとの間にあることが、ミーティングの基礎になります。「からだまるごと」で表している思いを、ミーティングでは言葉に置き換えていくだけだからです。

### ● 子どもが感じている気持ちを共感しながら言葉にする

子どもがおとなの目線や評価を気にしないで、自分の本音を出せているか。保育者としては、子どもが心を打ち明け、託せるような人になれているか。表情、しぐさ、行動、子どもの言葉にならない声に耳を澄ませて、その思いに心を寄せながら保育をしていくことが、まずははじめの一歩です。痛そうにしているなら、「痛かったよねえ」、怒っていそうなら「今、怒ってるんだよね」と、子どもが感じているであろう気持ちに共感しながら言葉にしてみてください。だんだんと子どものほうでも自分の気持ちを言葉でも表すようになってきます。心があふれて言葉になる。そのために私たち保育者が子どもの隣にいる意味はとても大きいのです。

『保育ナビ』2024年度「子どもたちのミーティングQ&A」（執筆／青山誠）

子どもたちのミーティング Q&A

# ミーティングの 10のステップ

子どもたちとつくるミーティング（サークルタイム）を、10のステップに分けて詳しく見ていきます。
園で取り組む際には、まずは1つずつ、ステップを踏みながら進めていきましょう。
『保育ナビ』の毎月の連載では、現場の先生方からの疑問に、ステップごとに青山先生が答えています。
本資料と併せて、ご活用ください。

## ステップ概要

- ステップ 0　本音を出せる環境があるか
- ステップ 1　集まる → ステップ 2　耳を向ける → ステップ 3　声を出す →
- ステップ 4　傾聴する → ステップ 5　話す → ステップ 6　会話する →
- ステップ 7　考える → ステップ 8　意見を出す → ステップ 9　考え合う →
- ステップ 10　そしてまた暮らしへ

## ステップ 1　集まる

### ● ミーティングは「寄り合い」です

集まる時に「1日1回は顔を合わせて、みんなでおしゃべりしよう」、そんなイメージをもってください。ミーティングは堅苦しい会議ではなく、結論も必ずしも出す必要はありません。ミーティングは「寄り合い」です。

例えば、Aちゃんと Bくんがブロックの取り合いでけんかして、保育者が間に入って「折り合いをつけさせる」ってありますよね。

「Aちゃん、終わったら貸してあげられる？　Bくんも叩かないでお口で言ってみようか。同じブロックあるけどこっちじゃだめかなあ」

お互いの気持ちは受け止めつつ、折り合いの付けられる地点を探っていく。

でも子どもの本音としては、

Aちゃん「あたしだけがつかっていたい。えいえんに」

Bくん「たたいてでもほしい。ほかのってなに？？Aちゃんがつかってるブロックだからこそ、つかいたい！」

一方、ミーティングでは本音は本音のままで出してもらいます。そうすると、周りの子たちがいろいろ言い出します。

「たたくことないじゃん」

「でも、ついってあるよね、つい、たたいちゃう」

「おなじブロック、つくれないの？」

「おれ、つくれる（根拠なし）」

「あたしもつくれる」

「えーと……（話の筋、逸脱しちゃったから）、どうしたもんかねえ」と、おとな。

「だからー、たたくことはないって」

「それくらい欲しかったみたい。みんなは人のものが欲しくなったらどうするの」と、投げかけてみます。（ここの展開のコツはまた改めて……）

「ちかくいって、へー！　へぇええ！！！　って、いう」

「くれよ、でいいじゃん」

「いっしょにあそばない？　そのブロックで」

「あきらめて、ほかのであそぶ」

そのうちにわいわいがやがやとなったまま散会します。無理矢理に結論を出さなくても、それぞれの本音が出て、周りの子も一緒にあれこれ考え合えれば OK です。

# ミーティングの 10のステップ

子どもたちとつくるミーティング（サークルタイム）を、10のステップに分けて詳しく見ていきます。
園で取り組む際には、まずは1つずつ、ステップを踏みながら進めていきましょう。
『保育ナビ』の毎月の連載では、現場の先生方からの疑問に、ステップごとに青山先生が答えています。
本資料と併せて、ご活用ください。

## ステップ概要

- ステップ 0　本音を出せる環境があるか
- ステップ 1　集まる → ステップ 2　耳を向ける → ステップ 3　声を出す →
- ステップ 4　傾聴する → ステップ 5　話す → ステップ 6　会話する →
- ステップ 7　考える → ステップ 8　意見を出す → ステップ 9　考え合う →
- ステップ 10　そしてまた暮らしへ

## ステップ 2　（おとなの声に）耳を向ける

### ● まずはおとながおしゃべりを

子どもたちにいろいろ質問しているのに、答えが返ってこないという悩み相談を受けることがあります。まず話し合いの土台をつくるためには、おとなの声に耳を向ける機会を多くもつ必要があります。これは普段やっている絵本の読み聞かせなどでもかまいません。

また子どもが固くなっているなら、おそらくおとなが聞く人、子どもが答える人、という一方的な関係になっているのではないでしょうか。

人は、人がしゃべっていると、自分もしゃべりたくなるもの。まずはおとながおしゃべりしましょう。

「あのね、今日雨が降っていてね。あっ、傘がない！　どうしよう！　って思ったわけ。それで駅まで走ったんだ」
「あのね、ブロックが1つだけ落ちていたのよ。昨日帰る時に全部しまっていったのに。これって、おばけ？　おばけって、ブロック好きなのかな」
「あのね、さっきトイレに行きたくなったんだけど、ちょうど折り紙折っていたの。トイレ行きたい。でも折り紙置いていって、だれかに持っていかれちゃうかな。でも、でも、ってなってさあ……」

こんなふうにしゃべってから、「『あのね……』がある人いる？」と投げかけてみます。

そうすると、
「あのね、おばけっているんだよ。トイレに。それでおりがみたべるよ」
「あのね、うちでも、あめもふってた」
「あのね、すなばでやまつくってて、ブランコのってかえってきたら、こわされてた。だれだよ、こわしたの」

という感じで、子どもたちからも話が湧き上がってきます。

まずは子どもたちと気楽におしゃべりする感じで、おとながぺちゃくちゃ話してみてください。

# ミーティングの 10のステップ

子どもたちとつくるミーティング（サークルタイム）を、10のステップに分けて詳しく見ていきます。
園で取り組む際には、まずは1つずつ、ステップを踏みながら進めていきましょう。
『保育ナビ』の毎月の連載では、現場の先生方からの疑問に、ステップごとに青山先生が答えています。
本資料と併せて、ご活用ください。

## ステップ概要

- ステップ 0　本音を出せる環境があるか
- ステップ 1　集まる → ステップ 2　耳を向ける → ステップ 3　声を出す →
- ステップ 4　傾聴する → ステップ 5　話す → ステップ 6　会話する →
- ステップ 7　考える → ステップ 8　意見を出す → ステップ 9　考え合う →
- ステップ 10　そしてまた暮らしへ

## ステップ 3　声を出す

### ● まずは子どもの名前を呼ぶ

椅子を車座に並べたら、まずは子どもの名前を呼びます。「ハイ」とか、「ワン」とか、手を少し挙げてみるとか、いろいろな反応が返ってきます。

これは仲間であることの確認でもあり、その場に自分を出す、はじめの一歩です。ただし、最初はなかなかハードルが高い子も。照れているからふざけたり、顔が真っ赤になっちゃったり。

ですから、ミーティングのはじめに名前を呼ぶという順序にこだわらなくてもOK。みんなが緊張していたら、まずはおとながしゃべって場をほぐしてあげてからでもいいのです。

### ● 持ち物や表情から「声」を拾ってみる

また、その場で自分を出すのは声でなくてもいいのです。たまたま握りしめているブロックや折り紙、なんだか気になる表情。その子がなにかしら「表現しているもの」を保育者が拾います。

「そのブロックちょっと見せて。これで遊んでたの？」「その折り紙さっき折ってたよね。だれに教えてもらったの？　え、自分で覚えたの？　本見て？」「なんかさ……、〇〇ちゃん、怒ってる？」

保育者が拾ってあげると、「えっとね、これはね、さっきね」と子どもがしゃべり出しやすくなります。その場で自分を出すことに慣れてきて、次第に子どもたちからもみんなに見せたいものを持ち込んでくれます。

「ザリガニつかまえたんだけどさー、みんな、みる？」「これ、ママにプレゼントするの」などなど。

ここで大事なのは、言葉にならない子どもの「声」を拾うこと。日常的に、保育者は「子どもの声」に耳を澄ましています。子どもの表情や行動、居る場所、姿勢、持っているものなどから、その子の声を拾っているわけです。

『保育ナビ』2024年度「子どもたちのミーティングQ＆A」（執筆／青山誠）